

眼科手術について

よく外来中に言われる言葉に「目の手術は怖い」というのがあります。確かにこの言葉は真理をついています。人間は外界からの情報を嗅覚、視覚、触覚、聴覚、味覚などを統合して取り込みますが、視覚については全ての感覚に連動しており、これにメスを入れ



伊藤 勇

保谷伊藤眼科院長

大学病院で最先端の眼科医療に携わってきた眼科専門医。地域の医院との連携を積極的に図っている。

いが強く、なんとか元の見え方に戻そうという手術でしょうか。緑内障手術は、眼圧を下げることで、視野の欠損の進行速度をゆっくりにもしくは止めることを目的とした治療です。ところが、緑内障手術というものがなかなか認知されていないという現実が、東日本には多く見受けられます。現在の緑内障治療の第一選択は、点眼療法です。これにより眼圧を下げることで、死ぬ間際まで視力を保つことができると予想されれば、この療法を続ける価値はあります。しかし、点眼をしていても内服をしても、ほとんど視野が欠けて

眼科手術にはいろいろな種類がありますが、代表的な手術に、白内障手術、網膜硝子体手術、緑内障手術が挙げられます。白内障手術は、光を取り戻し視力を向上させ、日常生活が豊かに戻る可能性の非常に高い手術です。網膜硝子体手術は、視機能に悪影響を及ぼしている血管や網膜の修復という意味合

いながら、なんとか元の見え方に戻そうという手術でしょうか。緑内障手術は、眼圧を下げることで、視野の欠損の進行速度をゆっくりにもしくは止めることを目的とした治療です。ところが、緑内障手術というものがなかなか認知されていないという現実が、東日本には多く見受けられます。現在の緑内障治療の第一選択は、点眼療法です。これにより眼圧を下げることで、死ぬ間際まで視力を保つことができると予想されれば、この療法を続ける価値はあります。しかし、点眼をしていても内服をしても、ほとんど視野が欠けて

いながら、なんとか元の見え方に戻そうという手術でしょうか。緑内障手術は、眼圧を下げることで、視野の欠損の進行速度をゆっくりにもしくは止めることを目的とした治療です。ところが、緑内障手術というものがなかなか認知されていないという現実が、東日本には多く見受けられます。現在の緑内障治療の第一選択は、点眼療法です。これにより眼圧を下げることで、死ぬ間際まで視力を保つことができると予想されれば、この療法を続ける価値はあります。しかし、点眼をしていても内服をしても、ほとんど視野が欠けて

いながら、なんとか元の見え方に戻そうという手術でしょうか。緑内障手術は、眼圧を下げることで、視野の欠損の進行速度をゆっくりにもしくは止めることを目的とした治療です。ところが、緑内障手術というものがなかなか認知されていないという現実が、東日本には多く見受けられます。現在の緑内障治療の第一選択は、点眼療法です。これにより眼圧を下げることで、死ぬ間際まで視力を保つことができると予想されれば、この療法を続ける価値はあります。しかし、点眼をしていても内服をしても、ほとんど視野が欠けて

いながら、なんとか元の見え方に戻そうという手術でしょうか。緑内障手術は、眼圧を下げることで、視野の欠損の進行速度をゆっくりにもしくは止めることを目的とした治療です。ところが、緑内障手術というものがなかなか認知されていないという現実が、東日本には多く見受けられます。現在の緑内障治療の第一選択は、点眼療法です。これにより眼圧を下げることで、死ぬ間際まで視力を保つことができると予想されれば、この療法を続ける価値はあります。しかし、点眼をしていても内服をしても、ほとんど視野が欠けて

☎ 042-439-8123

西東京市北町 1-6-1
レッツビルディング 3F
<http://www.itoganka.com/>

■科目：網膜硝子体疾患手術、緑内障手術
白内障手術、眼科一般診療

■時間：水・土曜午後、日曜、祝日は休診
※緊急手術は随時対応 夜間・金曜午後は予約優先



	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	○	○	○	○	○	○	○
14:00~17:00	検査・診察	手術	手術	手術	検査・診察	検査・診察	検査・診察

た次第でした。多くの手術をもっと認知させなければいけません。身を引き締め